

関係各位

病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察技術情報（第1号）の送付について

早期稲の葉いもちの発生について

6月下旬現在、県下の早期稲における葉いもちの発生面積が県西部、中西部を中心に平年よりも多く（平年比；182%）なっています。また、発生程度は全般的には平年並ですが、一部に進行型もみられています（表1）。

向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が平年並または多め、気温は平年並またはやや高め、降水量は平並またはやや少なめの確率が高くなっているため、いもち病の感染リスクは高くはないと考えられますが、ほ場条件によっては穂いもちの発生が懸念されます。今後、ほ場での発生状況と気象情報に十分注意して下記の対策を心がけて下さい。

記

「防除対策」

- 1 進行型病斑が見られているほ場では、穂いもちの発生を防ぐため、出穂期以降の追加防除を検討してください。
- 2 薬剤防除を行う場合は、周辺作物への薬剤の飛散に十分に気をつけてください。
- 3 QoI剤（ストロビルリン系殺菌剤）耐性いもち病の発生を防ぐため、これらの剤の使用は作期を通じて1回としてください。

表1. 早期稲における葉いもち発生状況（6月下旬調査）

	本年発生面積(ha)	平年発生面積(ha)	作付面積(ha)	発生程度
東 部	10	9	687	並
中央部	248	231	3,636	やや低
中西部	105	45	732	並
西 部	578	232	1,445	並
県合計	941	516	6,500	並